緩　和　ケ　ア

科目責任者　山　口　重　樹
学年・学期　４学年・前期

Ⅰ．前　　文

緩和ケアとは，がん患者などの苦痛軽減を目的とする治療と，さらに患者の精神やスピリッチュアルな問題などのケアを行うもので，医療従事者，ソーシャルワーカー，宗教家，ボランティアなど，多くの人々がチームを編制して患者や家族をサポートしていく医療である。

Ⅱ．担当教員

放射線科学　（江　島　泰　生）
麻酔科学　（白　川　賢　宗）
とちぎメディカルセンターとちのき　緩和ケア科　（石　川　和　由）
国立がん研究センター東病院　緩和医療科　（松　本　禎　久）
がん研有明病院　緩和治療科　（佐　伯　吉　規）
足利赤十字病院　緩和ケア内科　（岡　本　　猛）

Ⅲ．一般学習目標

がん療養中の患者が直面する様々な苦痛（身体的，精神的，社会的，スピリチュアル）およびその治療，ケアについて総合的に講義する。

Ⅳ．学修の到達目標

がん医療における患者の様々な苦痛について考えるとともに，医学生として「自己の死」と「他者の死」を熟考，緩和ケアの実際を理解する。

Ⅴ．授業計画及び方法　＊（　）内はアクティブラーニングの番号と種類

（１：反転授業形式（事前学習用動画等の教材を前もって配付する。原則として授業中に事前学習の内容に関する小テストを行い知識の確認を行う。）
２：ディスカッション　３：グループワーク　４：実習　５：プレゼンテーション　６：その他）

回数	月	日	曜日	時限	講　義　テ　ー　マ	担　当　者	アクティブラーニング
1	6	24	木	1	緩和ケアの概論	麻酔科学 白川賢宗	
2		24	木	2	がん患者の身体的ケア（痛み以外）	とちぎメディカルセンターとちのき 石川和由	
3		24	木	3	緩和ケアの実際（緩和ケア病棟）	足利赤十字病院 岡本　猛	
4	7	2	金	1	がん患者の痛みの評価と治療	国立がん研究センター東病院 松本禎久	
5		2	金	2	がん患者の心のケア（精神腫瘍学）	がん研有明病院 佐伯吉規	
6		2	金	3	緩和ケアと放射線治療	放射線科学 江島泰生	

四学年

Ⅵ. 評価基準（成績評価の方法・基準）

テストの結果に出席（日数，態度）を加味して評価する。

Ⅶ. 教科書・参考書・ＡＶ資料

日本医師会提供

http://www.med.or.jp/people/cancer/000005.html

1）こんなとき，どうする？「がん」といわれたら（PDF）

2）がん性疼痛治療のエッセンス　2008年版（PDF)

3）がん緩和ケアガイドブック　2008年版（PDF)

4）症例で身につくがん疼痛治療薬（羊土社）

5）がん突出痛のマネジメント（メディカルレビュー社）

6）オピオイド乱用・依存を回避するために（真興交易）

Ⅷ. 質問への対応方法

随時受け付ける。但し，事前のアポイントを秘書を通して申し込んで頂きたい。

Ⅸ．卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

＊◎：最も重点を置くDP　　○：重点を置くDP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能，種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い，他者に説明することができる。	
	種々の疾患の診断や治療，予防について原理や特徴を含めて理解し，他者に説明することができる。	◎
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け，正しく実践することができる。	
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け，患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け，患者やその家族，あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	○
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	
	書籍や種々の資料，情報通信技術〈ICT〉などの利用法を理解し，自らの学修に活用することができる。	
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち，専門的議論に参加することができる。	
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち，実践することができる。	
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し，自らの行動に反映させることができる。	
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け，自らの行動に反映させることができる。	○
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。	○
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。	○

Ⅹ．課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

試験の結果を講評し，解説する。

Ⅺ．求められる事前学習，事後学習およびそれに必要な時間

シラバス別冊参照。シラバス別冊に記載がない場合，事前学習として要点を確認しておくこと。(20分)

事後学習として各授業で配布されたレジュメをもとに，内容をまとめて質問に解答できるようにしておくこと（60分)。

Ⅻ．コアカリ記号・番号

A－4－1　コミュニケーションを通して良好な人間関係を築くことができる。

四学年